

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2020 全ラインナップ発表!! 9/26(土)~10/4(日) オンラインで開催!!

報道関係者各位

平素より大変お世話になっております。

2004年に埼玉県川口市で始まった「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭」は、国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門、短編部門）で構成されるコンペティション上映を中心にした“若手映像クリエイターの登竜門”として毎年開催を重ねてきました。これまでに、『風待ち』の白石和彌監督、『浅田家!』の中野量太監督、『カメラを止めるな!』の上田慎一郎監督、『岬の兄妹』の片山慎三監督など、トップランナーとして日本映画界をけん引する監督や、新作を心待ちにされる監督たちを多数輩出しています。



17回目を迎える本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止および来場者、関係者の皆様の安全確保を第一に考慮し、**9月26日(土)~10月4日(日)の9日間、初めてとなるオンライン配信で開催いたします。**

本日8月31日(月)、オンライン記者発表を行い、国際コンペティション、国内コンペティションのノミネート作品全ラインナップを発表いたしました。詳細は下記の通りです。

世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、文化の力が改めて問われる中、本映画祭は、映画の未来を担う新たな才能の発掘に引き続き取り組んで参ります。ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介しますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年は配信サイト「シネマディスカバリーズ」で全24作品を配信!

今年のコンペティション部門全24作品は、動画配信サイト「シネマディスカバリーズ」で配信します。

配信期間	2020年9月26日(土) 9:00 ~ 10月4日(日) 23:00
視聴環境	WEBブラウザ (PC、タブレット、スマートフォン等)
視聴料金	① 単品購入プラン (購入後48時間視聴可能) 国際コンペティション、国内コンペティション (長編部門) 1作品300円 (税込) 国内コンペティション (短編部門) 1作品100円 (税込)
	② SKIPシティ映画祭フリーパス (見放題プラン) 1,480円 (税込)
決済方法	各種クレジットカード
視聴の手順	① シネマディスカバリーズでの会員登録 (無料) ② シネマディスカバリーズ公式サイト内 特設ページより作品の選択 ③ 視聴プランの選択 ④ ご視聴



CINEMA DISCOVERIES

<シネマディスカバリーズとは>

2020年4月より開始した定額制のキュレーション映画配信サービス。インディペンデント映画をメインにミニシアター系映画を取り扱いながら、作り手にスポットライトを当てたコンテンツを豊富に揃えている。 公式サイト: <https://cinemadiscoveries.co.jp/>

コンペティション3部門には過去最多106の国・地域から1,169本がエントリー!!
国際コンペティションには厳選10作品がノミネート!! 初めて長編ドキュメンタリーを2本選出
ニーナ・ホス、ステラン・スカルスガルド、ヒューゴ・ウィーヴィング出演作も!

今年の「国際コンペティション」は、2019年のヴェネツィア国際映画祭オリゾンティ部門のオープニングを飾り、「母性」についての深い考察を『東ベルリンから来た女』のニーナ・ホスが鬼気迫る演技で演じきった傑作心理ホラー『ペリカン・ブラッド』、『マトリックス』のエージェント・スミスや『ロード・オブ・ザ・リング』のエエルンド役で知られるヒューゴ・ウィーヴィングが主演を務め、南スーダン内戦をテーマに異なる立場から戦争と対峙する二人の男が育む友情を描くオーストラリア映画『南スーダンの闇と光』、そして監督自身の闘病経験を元に、事実婚の男女が突然直面した試練と希望を描く『願い』では、『マイティ・ソー』シリーズなどでハリウッドでも活躍する、スウェーデンを代表する名優ステラン・スカルスガルドが妻の突然の末期ガン告知に向き合う夫を演じているなど、豪華キャストに注目!

そして今年は初めてドキュメンタリー作品が2本ノミネート!

ひとつは、2017年のユニクロのCMでも話題となったダンサー、リル・バックの半生を追いかけた『リル・バック／メンフィスの白鳥』、そしてもうひとつは、世界的に著名な戦場カメラマン、ヤン・グラルuppとともにイラクのモスルに赴き、イラク軍とISIS（イスラム国）の紛争を映像に収め、一方でシングル・ファーザーとして子育てに奮闘する彼の人間性に迫る『戦場カメラマン ヤン・グラルuppの記録』。それぞれ全く異なる環境の中で自身の生き方と使命を模索する2人の人物を通じて、世界の広さと複雑さを感じられる力強いドキュメンタリーとなっています。

さらに、ロシアの片田舎で暴力の恐怖とそれに抗う手段としての“芸術の力”を描くヒューマンドラマ『ザ・ペンシル』、『変態ピエロ』のブルーノ・メルル監督が『おかえり、ブルゴーニュへ』のピオ・マルマイとタッグを組み、一風変わった家族を描いたシュールなフレンチ・コメディ『フェリチタ!』、ホロコーストを生き延びながら、今は自ら命を絶とうと試みる90歳のおばあさんの物語『シュテルン、過激な90歳』、負け犬たちが再起を賭けて闘志を燃やす姿に笑い、涙させられる、北欧テイスト満載のシニカル・コメディ『カムバック』、そして日本作品からは、SNSの承認欲求や歪んだフェティシズムを孤独な男女の緻密なラブ・ストーリーとして描きながら、人間の性（さが）をえぐり出す心理サスペンス『写真の女』など、ジャンルもテーマもバラエティ豊かなラインナップ!

海外作品はすべて日本初上映! 上映作品は最終審査を経て、10月4日（日）にグランプリをはじめ各賞を発表します。



『カムバック』
監督:パトリック・エークルンド
©Gustav Danielsson



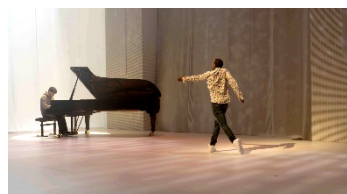
『フェリチタ!』
監督:ブルーノ・メルル
©Unité - Jack N'a Qu'un Œil



『南スーダンの闇と光』
監督:ベン・ローレンス
© 2019 Hearts and Bones Films Pty Ltd, Spectrum Films Pty Ltd, Lemac Films (Australia) Pty Ltd, Create NSW and Screen Australia



『願い』
監督:マリア・セーダール
©Manuel Claro



『リル・バック／メンフィスの白鳥』
監督:ルイ・ウォレカン



『シュテルン、過激な90歳』
監督:アナートル・シュースター
©Adrian Campean A+A Produktion.



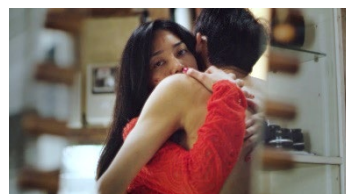
『ペリカン・ブラッド』
監督:カトリン・ゲッパ
©2019 Junafilm/Miramar Film, SWR & ARTE



『ザ・ペンシル』
監督:ナタリア・ナザロフ
©Salt Studio, ©Fortissimo Films



『戦場カメラマン ヤン・グラルuppの記録』
監督:ボリス・B・ベアトラム
©Good Company Pictures



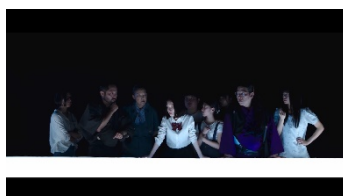
『写真の女』
監督:串田 壮史
©ピラミッドフィルム

日本映画の未来を担う才能の発掘を目的とする「国内コンペティション」 若手監督の熱量に圧倒される、長編部門5作品、短編部門9作品がノミネート！

今年の国内コンペティション、長編部門には昨年『ミは未来のミ』で本映画祭 SKIP シティアワードを受賞した磯部鉄平監督が新作『コーンフレーク』で3年連続のノミネート！ 今作では大阪を舞台にずるずると同棲を続けるカップルに訪れた危機を愛おしく映し出す。さらに、第23回タリン・ブラックナイツ映画祭でグランプリと最優秀音楽賞、今年3月の第15回大阪アジア映画祭で最優秀男優賞を受賞した、アンシュル・チョウハン監督作『コントラ』、解離性同一性障害をモチーフに、多重人格のキャラクターをそれぞれ別の俳優が演じる新感覚サスペンス『B/B』、高校時代に感じた“ある感情”を8年経っても忘れられずにいる女性と元同級生の青春ドラマ『あらののはて』、どこか異世界のような過疎の村を舞台に、静かなリズムで「実存」の神秘を問う『雨の方舟』の計5本を選出しました！



『あらののはて』
監督:長谷川 朋史
©ルネシネマ



『B/B』
監督:中濱 宏介
©中濱宏介



『コーンフレーク』
監督:磯部 鉄平
©belly roll film



『コントラ』
監督:アンシュル・チョウハン
©2020 KOWATANDA FILMS. ALL RIGHTS RESERVED.

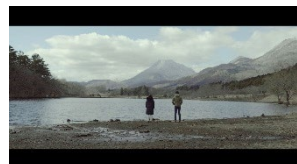


『雨の方舟』
監督:瀬浪 歌央
©2020 京都造形芸術大学映画学科卒業制作瀬浪組

短編部門では、『葛城事件』『愛がなんだ』などで注目を集める若手実力派俳優・若葉竜也が監督を務めた『来夢来人』、『バッシング』の占部房子と『恋人たち』の黒田大輔がどこか不気味さを漂わせる迫真の演技で観客の予想を鮮やかに裏切るサスペンス『つぐない』、「モンスターストライク」や「白猫プロジェクト」のCMで注目された武伊リヤ主演で、世界遺産に登録された長崎県・黒島を舞台にした女生徒と教師の淡くせつないラブ・ストーリー『リッちゃん、健ちゃんの夏。』、『ロストパラダイス・イン・トーキョー』の菟田高城、『猿楽町で会いましょう』の石川瑠華らが出演し古い空き家で共同生活を送る不思議なコミュニティに集う人々のドラマ『stay』など個性豊かな俳優陣の出演作に注目！

さらに是枝裕和監督、篠崎誠監督が指導に当たる早稲田大学基幹理工学部の映像制作実習で制作された『ななめの食卓』、個人の価値が全てデータ化され、誰でも見られる近未来を描く『axandax』、すべてが黒白ははっきりしないと気が済まない女の子と、自称・幽霊のおっさんのコントラストをモノクロ映像で魅せる『そして私はパンダやシマウマに色を塗るのだ。』、深夜ラジオがつなぐ大学生の甘酸っぱい青春ストーリー『レイディオ』、“国際交流”のために日系ブラジル人学校を訪れた高校生が直面する現実に真っ向から挑んだ『ムイト・プラゼール』の計9本がノミネート！

エネルギー溢れる若手監督がそれぞれのアプローチで各々のテーマに向き合った、作風も様々な合計14作品を上映します。



『axandax』
監督:二羽 恵太
©niwak



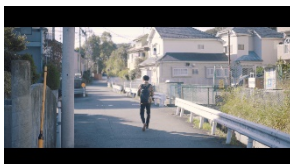
『来夢来人』
監督:若葉 竜也



『ムイト・プラゼール』
監督:朴 正一



『つぐない』
監督:宮部 一通



『レイディオ』
監督:塩野 峻平



『リッちゃん、健ちゃんの夏。』
監督:大森 歩
©渋谷 TANPEN 映画祭 CLIMAXat 佐世保 2019
AOI Pro.



『ななめの食卓』
監督:岸 朱夏



『stay』
監督:藤田 直哉
©東京藝術大学大学院映像研究科



『そして私はパンダやシマウマに色を塗るのだ。』
監督:武田 佳倫
©eiken

主催者、国際コンペティション・国内コンペティション審査委員長 コメント**○大野 元裕 （SKIP シティ国際映画祭実行委員会会長／埼玉県知事）**

埼玉県は、次の世代を担う新たな才能の発掘を目的に映画祭を開催してきた。17 回目を迎えた今年は、新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮し、オンライン配信での開催を決断した。初の試みだが、本映画祭のファンを広げる機会となることを願っている。今年のコンペティションには、106 の国と地域から 1,169 本の作品が集まった。国数、作品数ともに過去最多であり、「若手映像クリエイターの登竜門」として大きな期待が寄せられていることを実感する。期間中は、ノミネート作品 24 本をいつでも視聴いただける。皆様の投票で決まる「観客賞」もあるので、若手クリエイターの熱い思いが込められた作品を、是非ご覧いただきたい。

○奥ノ木 信夫 （SKIP シティ国際映画祭実行委員会副会長／川口市長）

毎年、SKIP シティを会場として、川口市内外から多くのお客様にご来場いただき、感謝申し上げます。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2004 年の初開催以来、初めて、オンライン配信での開催となっている。今までご来場できなかったお客様にも、作品をご覧いただける機会となるので、これまで以上に、多くのお客様に映画祭を楽しんでいただきたい。映画界の次代を担うクリエイターの発掘と育成を、今後も継続的に支援し、日本をはじめ、世界中の人たちからも厚い支持を受ける国際映画祭を目指して、開催都市として、本映画祭を盛り上げて参りたい。

○八木 信忠 （SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 総合プロデューサー）

今年は新型コロナウイルス感染症流行のため、インターネットでの上映会ということになった。残念だが苦肉の策であり、楽しみにされていた皆様にはお許し願えたら幸いである。今回は、海外・国内合わせて 1,169 作品の応募があった。前年に比べて 308 作品の増加だ。作品募集時はここまで新型コロナウイルスが世界中に蔓延すると想定していなかったが、こうした困難な状況にめげることなく、引き続き映画製作が活発に行われていくことを願っている。どんな作品が入賞に輝くか、皆様、期待を持ってご覧いただきたい。

○澤田 正道 （国際コンペティション審査委員長／映画プロデューサー）

現在、私たちは、コロナウイルスによる影響もあって、国境を越えるということを制限されている。ただ、この状況にあっても、映画は様々な方法を見つけ国境を越えようとしている。伝えたい、作りたいという願望と、観たい、共有したいという欲求が常に相互作用で存在しているからだと思う。今回間違いなく、私自身も多くのことを発見し、学ぶことになること確信している。同じ映画界の人間としてジェラシーを覚えるような、そんな映画に出合えることを心待ちにしている。日本のひとつの地方都市、川口市からの提案がますます世界からの関心を惹きつけることを願ってやまない。

○部谷 京子 （国内コンペティション審査委員長／美術監督）

このコロナ禍の中で、映画製作者の皆さんは、揺るぎない信念と覚悟を持って現場に臨んでいることと思う。この映画祭を通して、皆さんの作品と出会えること、そして皆さんを知る機会を得られて、本当に幸せだ。この映画祭を目一杯楽しみましょう。

○土川 勉 （SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 ディレクター）

現在の状況下での映画祭開催に当たっては様々な意見があったが、若き映像作家たちの作品の発信の場であることが本映画祭の第一の使命と考え、またコロナ禍の影響を最大限受けずに発表できる場として、配信による開催を選択した。本映画祭は今年で 17 回目を迎えるが、年々コンペ作品の質も向上して、映画祭終了後に一般公開される作品も増えていることは嬉しい限り。今年は国際コンペティションの審査委員長に、日本の才能ある映画監督を世界に発信させている著名なプロデューサーの澤田正道さん、国内コンペティションの審査委員長には著名な映画美術監督の部谷京子さんをお迎えすることができた。今から審査会を楽しみにしている。

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2020（第 17 回）開催概要

- 会期：2020 年 9 月 26 日（土）～10 月 4 日（日）　＜9 日間＞
- 上映：オンライン配信　（配信サイト：シネマディスカバリーズ）
- 部門：国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門）、国内コンペティション（短編部門）
- 主催：埼玉県、川口市、SKIP シティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 映画祭公式サイト：www.skipcity-dcf.jp

- 「シネマディスカバリーズ × SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2020」特設サイト
<https://cinemadiscoveries.co.jp/pub/skipcity-dcf>

＜お問合せ＞ SKIP シティ国際Dシネマ映画祭事務局　広報：堀切

TEL: 048-263-0818　FAX: 048-262-5635　MOBILE: 090-4228-2342　E-Mail: horikiri@skipcity.com